

令和6年度第1回 今治圏域災害医療対策会議 議事概要

- 1 日 時 令和6年7月25日(木) 15:00~16:15
- 2 場 所 東予地方局今治支局 4階大会議室
- 3 出席者 委員13名(うち代理出席3名)、愛媛県立今治病院 伊藤英太郎医師、事務局5名
- 4 傍聴者 0名
- 5 議題及び主な内容

(1) 令和6年能登半島地震におけるDMAT活動報告

- 愛媛県立今治病院 DMAT の伊藤 英太郎医師から、令和6年能登半島地震における公立宇出津総合病院での支援活動や福祉施設調査等の DMAT 活動についてご報告いただいた。

<質疑応答・主な意見>

- ・ (高月副会長) 超急性期を過ぎてからの活動であったが、普段の組織内での災害訓練と比較した印象の違いや、今治が被災し受援側になった場合を想定した場合の新たな発見はあったか。
→ (伊藤医師) 実践と訓練は異なるのではないかと考えていたが、実際には大きな違いはないと感じた。普段からの訓練が大切。DMAT は病院にとっては外部からのチームであり、早く受け入れてもらえるよう、常勤医師と医局で話しコミュニケーションをとるようにした。
- ・ (高月副会長) 能登町役場の災害本部や消防機関などとのミーティングにも参加したか。
→ (伊藤医師) 能登町調整本部の会議には病院のリーダー1名が参加し、DMAT 隊は参加していない。
- ・ (松田委員) 水の配給体制はどうだったか。
→ (伊藤医師) 給水車が給水。最低限は確保できるが、院内の水道やトイレに水を流せるほどではない。

(2) 能登半島地震 DHEAT 派遣の経験

- 岡田会長から、令和6年能登半島地震での DHEAT 派遣の経験について(資料1)、報告いただき、委員間で共有した。

<質疑応答・主な意見>

- ・ (高月副会長) DHEAT は避難所や施設を担当するのか、保健所の応援部隊として活動するのか。
 - (岡田会長) 保健所の応援だが、市町村保健センターが抱える避難所や福祉等の制度的なサポートを行う。
- ・ (高月委員) 避難所に常駐し管理する担当は、誰が担うのか。
 - (岡田会長) 災害支援ナースが、初期は DMAT の要望や自発的要望によって派遣される。
- ・ (高月委員) 避難所の維持管理に必要な人員数は。多くの避難所があるが人員を確保できるのか。
 - (岡田会長) 市町村の役割となる部分もあるが、小規模な避難所に市町村職員は常駐できない。今治市の体制はどうか。
 - (広瀬委員) 自身も輪島市の支援に行ったが、指定避難所以外にも独自の避難所が開設されていた。今治市の現想定では、避難想定者が収容できるだけの指定避難所を確保しているが、今後の被災想定の見直しにもよる。
- ・ (広瀬委員) 輪島市では、支援にあたる中で医療関係の支援スタッフが増員されていた。増員により、必要なケアは実施できたのか。
 - (岡田会長) 国の指示で独自避難所も支援対象となり、把握できた独自避難所には保健師が派遣された。今回は限られた地域の被災であったため手厚く対応できたが、広域災害では派遣人員は少なくなると思われる。
- ・ (小堀委員) DHEAT は県単位で要請されるのか。
 - (岡田会長) 被災県が厚生労働省に要請し、厚生労働省が全国に要請、各都道府県が、派遣可能なチーム数や期間を回答する。厚生労働省がチーム数や派遣先等を割り振る。
- ・ (小堀委員) DMAT はどうか。
 - (伊藤医師) DMAT 事務局が調整し、県単位で動く。
 - (岡田会長) JMAT の割り振りはわからない。公立病院の再開に伴い、開業医の再開に向けて JMAT が支援する。全体的な方針決定は JMAT 本部が行っていると思う。
- ・ (松田委員) 石川では要支援者名簿は活かされたか。
 - (岡田会長) 輪島に関しては微妙。初期段階では活用し個別訪問で支援できたが、市全体としての評価に結び付けることは難しかった。

(3) その他

- 事務局より、災害時連絡用タブレット端末の貸借について(資料2)説明し、貸借契約の終了について提案した。

<質疑応答・主な意見>

- ・ 新たな質問や意見はなく、議題を終了した。詳細は会議終了後に事務局より別途連絡する。

○ 意見交換

- ・ (岡田会長) 輪島市での活動を通して、支援体制の流れが変わってきていると感じた。これまでは圏域単位での支援だったが、長期的な支援では市町の災害対策本部に近い場所で活動するのがスムーズだと思う。災害医療対策会議に関しても、発災直後だけでなく、復興段階における話し合いが重要になるのではないかという印象を持った。